

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.11.15 No. 151 連絡先 FAX 042-555-1911



沖縄の米陸軍特殊部隊による パラシュート降下訓練は281人以上！

10月29日から11月2日までのパラシュート等降下訓練は、延べ300人近くに達するものだったのではないかと、推測されます。

29日は昼間、56人のパラシュート降下が目視で確認され、30日も45人のパラシュート降下が確認されています。夜間は確認していません。

11月9日付「赤旗」紙には、米軍横田基地広報部が同紙に対して、10月31日と11月1日の2日間で、「合計180人が降下した」と答えたとの記事が載っています。なんと4日間を合計すると281人です。

29日と30日に夜間訓練をやっていたとしたら、300人にとどいているかもしれません。沖縄の米陸軍特殊部隊（グリーンベレー）の今回の訓練の報告を、自治体はしっかりと聞いて抗議してほしい。



C-130の訓練に関する「米空軍訓令」で 横田基地の訓練が激増か

青い空を我が物顔で飛行訓練するC-130には腹が立ちますが、さらに我慢ならないのが夜10時頃までの夜間飛行です。午後7時以降は飛行するな！と住民が訴訟を起こすのは当然です。

ところが、「赤旗」紙（上記）によると、米空軍は「C-130乗務員の訓練に関する米空軍訓令」（2012年8月）で、C-130機長の離着陸訓練、強襲離着陸訓練、有視界低空飛行訓練の飛行回数などが細かく指示されているというのです。夜間では暗視ゴーグルでの離着陸訓練というのもあります。

滑走路が短く条件の悪い場所に離着陸する強襲訓練も、3ヶ月間で1人当たり10回実施することを指示。さらに、兵員や物資投下訓練は、半年で1人当たり16回実施を求めています。

強襲離着陸滑走路は、沖縄の伊江島補助飛行場にあり、KC-130やMC-130が日常的に訓練をしています。横田基地にも強襲離着陸滑走路があります。ここで強襲訓練をしているのでしょうか。

米軍が勝手に「C-130乗務員の訓練に関する米空軍訓令」をつくり、横田基地で、自由に兵員や物資投下訓練や強襲離着陸訓練をすることは、周辺住民の安全・安心の生活と相容れません。

危険！ オスプレイ 3トンブロックをつり下げ飛行 沖縄県各地

MV22 オスプレイが沖縄県各地でコンクリートブロックをつり下げて飛行する姿が目撃されていますが、在沖縄海兵隊機関紙「オキナワ・マリリン」11月2日号は、「オスプレイは伊江島で10月25日、7000ポンドのコンクリートブロック1個をつり下げ、着陸帯の複数の場所に移動した」と報じています。右は「オキナワ・マリリン」紙に記事とともに掲載された写真です。7000ポンドは約3トンです。伊江島補助飛行場には、3トンと1トンのコンクリートブロック、重量不明の鉄の重りもあったそうです。



オスプレイと交代するCH46ヘリも同様の訓練を行っていましたが、防衛省によれば、同機の最大つり下げ重量は約2・3トンです。これに



対してオスプレイは5・7トンまで可能とされています。（写真：7000ポンドのコンクリートブロック）

米兵の女性暴行事件後の夜間外出禁止 内部にどんな声が (No. 151 の裏面)

「女性に対する暴力をなくす運動」が内閣府・男女共同参画推進本部で、11月12日から25日までの2週間、取り組まれているようです。沖縄では8月にも強制わいせつ致傷事件が起き、10月には米兵2人による集団強姦致傷事件がありました。許せないことです。米軍内では、女性兵士への性暴力も多発しています。軍隊は、なんと非人間的な組織なのでしょうか。

在日米軍は、暴力事件防止のために、夜間外出禁止令を出しましたが、米軍内で、どのような反応があるのでしょうか。米軍のホームページにコメントが載っていたので、少し紹介します。

- *この外出禁止令は、子どもを外出禁止にする以外の何ものでもない。
- *外出禁止令は、既にやってしまったダメージを元に戻すことは不可能だ。
- *これは、弾道ミサイルを、我々の頭上に撃ち込まれたようなものだ。
- *残念ながら、これは1回目であり、最後ではないだろう。
- *外出禁止令は、何か宣伝活動とおなじようなものである。
- *沖縄の米軍に対しては残念だけれども、必要な宣伝活動として、処罰と厳重取り締まりを公然と示すべきである。



- *問題は、沖縄市民がもう我々がここにいることを憎んでいることだ。
- *90年代後半に沖縄に駐留して以来、沖縄は何も変わっていないことがわかる。
- *夜間外出禁止令は、ウワサがすたれたあと、数週間で解除されるようである。
- *なぜ、2人の疑わしい行動に対して、たくさんが罰せられるのか。
- *なぜ、有罪が分かったら、まず犯した人を告発し、調査しないのか。

以上、抜粋・要約ですが、被害女性に対する謝罪もなく、反省も希薄です。綱紀肅正はかけ声だけです。「軍隊と性暴力は構造的に一体のもの」とダリル・モエン氏（文化人類学者で芝浦工業大学教授）は指摘しています。氏はベトナム戦争中、4年間米空軍に在籍。ベトナムにも派兵されました。アジア人蔑視を刷り込まれ、苛酷な訓練と日常的な暴言・暴行によって命を大切にす感性をそぎ落とされ、兵士自身がとことん人権を蹂躪されていく過程だった、といます。

米兵の自殺者数 今年前半で戦死者数を上回る 自殺対策は最重要事項

米国防総省の集計で、現役米兵の自殺者が今年前半で154人に達し、アフガニスタンでの同時期の戦死者124人を上回っていましたが、これは、昨年同時期の自殺者130人を約18%増加したことになります。10年前に比べると倍増しているそうです。10年以上に及ぶ戦争、度重なる前線派遣による心的外傷後ストレス障害、社会生活への不適合、経済的な苦境などで自殺が急増です。

パネッタ国防長官は、自殺対策を最重要事項の一つと位置付け「あらゆる手を尽くす」と表明しています。戦争をやめることこそ解決策ではないでしょうか。



2012年 日本平和大会in東京 11/23~25
首都から 平和な日本とアジアめざす
大きな流れを
米軍基地も軍事同盟もない
憲法の輝く日本をめざして

